モニタキット

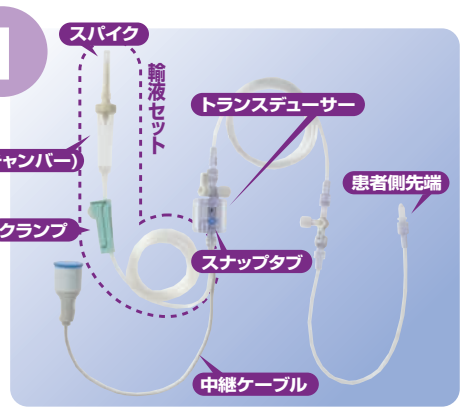
TruWave™モニタキット 使用手順

準　備

準備するもの

a. TruWave™モニタキット
b. 中継ケーブル
c. プライミング溶液
（ヘパリン加生理食塩水）
d. 加圧バッグ
その他. モニター、留置針、etc.

1



無菌的操作でパッケージからモニタキット（回路）を取り出します。

2

各部の接続がしっかり締まっているか確認します。

3

トランスデューサーの接続ケーブルを中継ケーブルにつなぎます。

プライミング

4

ヘパリンを加えたプライミング溶液のプラスチックバッグから、空気を完全に抜いてください。

注 意 バッグから空気が完全に抜かれていない場合、バッグが空になった時、患者の心血管系に空気が入り込む可能性があります。

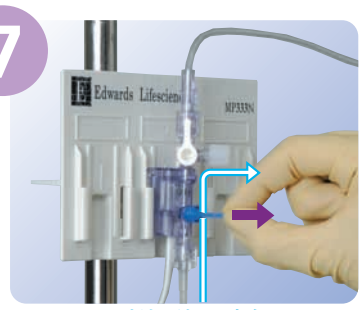
5

輸液セットのチューブをクランプして下さい。点滴筒（チャンバー）のスパイク部分から保護キャップをはずし、プラスチックバッグの流出口へスパイクを注意深く、まっすぐに挿入します。

6

点滴筒にプライミング溶液を半分ほど満たし、輸液セットのクランプを緩めます。

7



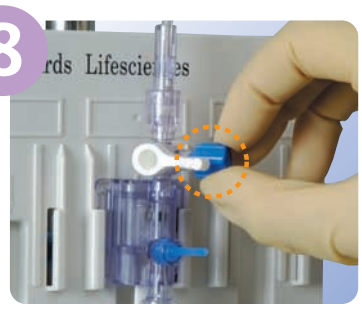
溶液の流れる方向

スナップタブを引くことで急速還流の状態にし、回路内にプライミング溶液を充填します。

- この際スナップタブをやや弱く引くと、溶液の流れが緩やかになり気泡が発生しにくくなります。
- スナップタブを強く引くと早く流れ、弱く引くとゆっくり流れます。

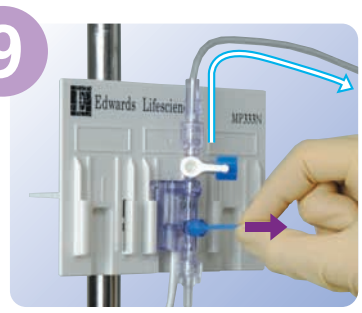
はじめに、トランスデューサーまで充填します。

8



トランスデューサーの活栓ハンドルを大気側に閉鎖にし、開放型キャップ（白）を閉鎖型キャップ（青）に取り替えます。

9



溶液の
流れる方向

残りの回路を同様に充填します。

注 意 回路内の気泡は空気塞栓や血圧波形のひずみの原因になります。

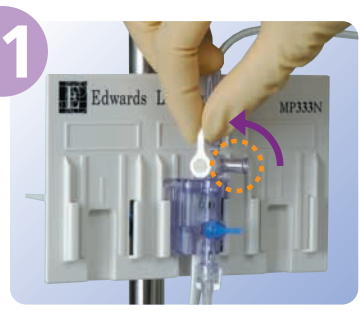
10

輸液バッグを300mmHg（40kPa）まで加圧します。この際、点滴筒がフラッシュ溶液で満たされていないことを確認してください。

注 意 回路内のどこにも気泡がないことを再確認してください。急速フラッシュを行うたびに、その後の持続流量が毎時約3ccに保たれるように定期的に点滴筒を観察してください。

ゼロバランス調整

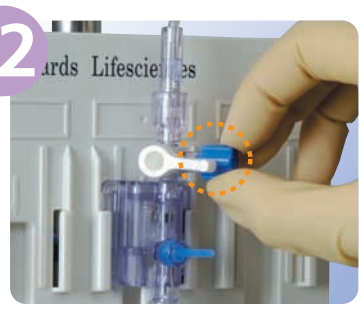
11



トランスデューサーの位置を測定したい部分と同じ高さにします*。
トランスデューサーの活栓ハンドルを患者側に閉鎖にし、トランスデューサーを大気側に開放にします。（キャップを外す）
モニターを操作しゼロバランスを取ります。モニターメーカーの取扱説明書に従って校正をします。

*裏面をご参照ください。

12



トランスデューサーの活栓ハンドルを大気側に閉鎖にし、閉鎖型キャップ（青）を再びつけます。

詳しくは添付文章をご参照ください。使用に当たっては、添付文章内の操作方法、禁忌・禁止事項等をご確認ください。

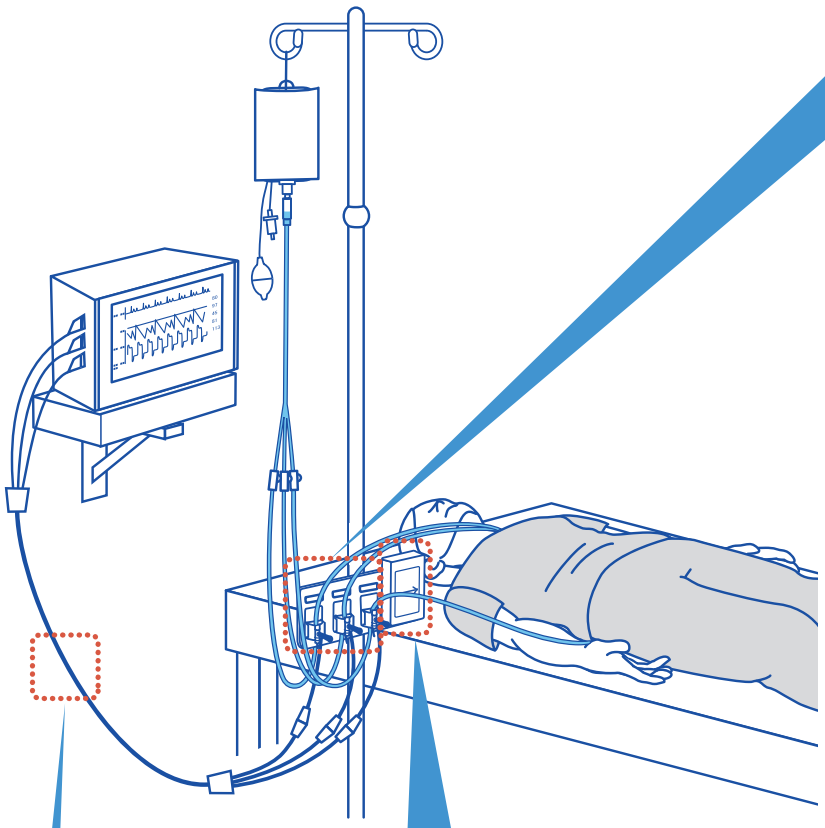
Edwards
LIFESCIENCES

販 売 名：モニタキット
承認番号：20100BZZ01182

© 2007 Edwards Lifesciences Limited. All rights reserved.
EW-2007-033

モニタキット関連製品

よりモニタキットを使い易い環境を提供します。

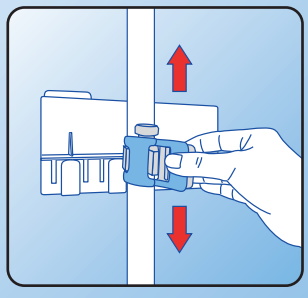


ホルダー／ポールマウント

・ホルダー／ポールマウント

キットの構成にあわせて、必要な数だけホルダーを取り付けられます。
固定式・角度調整式のポールマウントは、ホルダーをIVポールにしっかりと固定します。ポールマウントは、固定式とクリップ式をご用意しており、使い方に合わせた選択が可能です。

・クリップ式ポールマウント

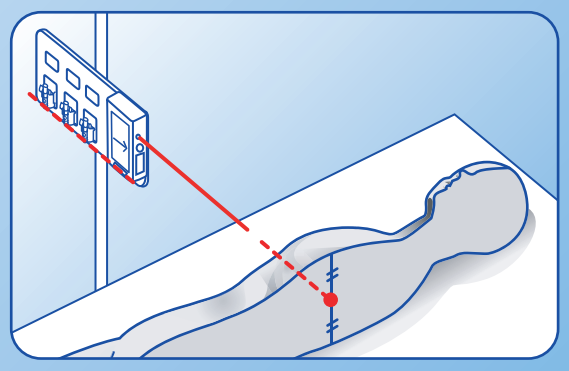


クリップによる固定で、取り外し・高さ調整が簡単に行えます。患者搬送時やトランスデューサーの着脱が多い環境でのご使用に最適です。

レーザーレベラー

・レーザーレベラー

水平が確認されたレーザー光を使用して、測定部位とトランスデューサーの高さを簡単に合わせることが可能です。
弊社ホルダーにセットすることにより、自動的にトランスデューサーのベントポート（ゼロ開放点）とレーザーの高さが一致します。レーザー光は30秒で自動的に消えます。



心内圧測定時の目安

患者の胸の厚さの半分の位置にレーザー光を当て、トランスデューサーの高さを調節してください。

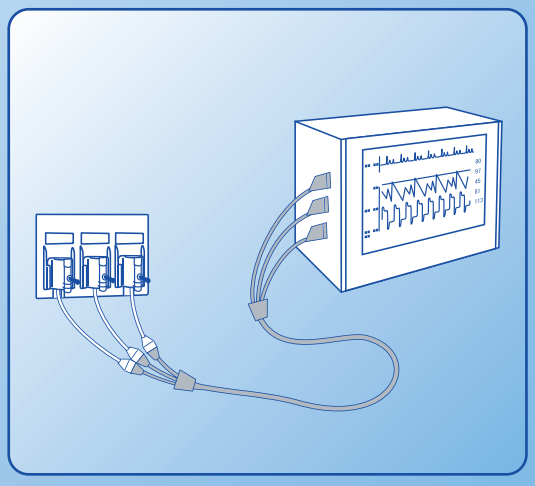
ケーブル

各種モニター用の接続ケーブルをご用意しています。ダブルキット・トリプルキットを1本のケーブルでモニターと接続できるよう、2連・3連のケーブルもラインナップに加わりました。

・ケーブル

・ケーブルチェッカー

ケーブルの断線や接続不良が発見できます。



煩雑になりやすいケーブルの取り回しをすっきりとさせます。

ご用命の際は、弊社営業担当者にご連絡下さい。